



横浜市立みなと赤十字病院

日本赤十字社

ご自由にお持ちください

みんなのみなと

「みんなのみなと」は皆さんにとって身近な病院になりたい、皆さんと職員が一つになってこの病院を作っていききたいという思いで命名しました。

巻頭特集

みなと赤十字病院の平成25年度の取組み

こどもたちを食物アレルギーから
守るためにできること

仕事への想い① 緩和ケア病棟師長 角藤厚美

「かかりつけ医」をもちましょう

当院の歴史③

2013年 夏号

病院
広報誌

みなと赤十字病院の平成25年度の取組み

当院は、開院以来、地域のみなさまが高度な医療を安心して受けていただくことができるよう努めています。今回は、平成25年度の取組みをお伝えします。

専門性を活かした診療を行うために、診療科を細分化しました

左記の診療科について、診療科を細分化しました。これにより、それぞれの専門医が今まで以上に患者さんのニーズに対応した診療を行います。



<p>消化器内科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 消化器内科 ● 消化器内科 ● 肝臓内科 	<p>内科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 内科 ● 内分泌内科 ● 血液内科 ● 腎臓内科 ● リウマチ科
<p>放射線科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 放射線診断科 ● 放射線治療科 	<p>外科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外科 ● 消化器外科 ● 大腸外科 ● 肝臓外科 ● 乳腺外科

今回は乳腺外科をピックアップ!!

これでタバコときようなら禁煙外来始めました

体には悪いのはわかっているけど、なかなかやめられなくて……。そんなあなたに朗報です。医師の指導の下で、今度こそ禁煙してみませんか。



- 外来日** 隔週水曜日 午後3時から4時
- 治療内容** 禁煙補助薬(貼り薬もしくは内服薬)を使用します。3か月で5回受診します。
- 注意事項** 治療を始めるにあたっては、いくつかの条件があります。また、途中で1回でも受診できなかった場合は、治療は中止となります。

お問合せ
045(628)6100(代表)
「禁煙外来について」とお問合せください。



外来編

ピックアップ!

乳腺外科外来がスタート!!

最新の診断機器と、専門のスタッフをそろえ、乳腺外科外来がオープンしました。



知っていますか？ 乳腺外科

現在、乳がんは、女性がかかるがんの第一位です。16人に1人が乳がんになり、年間6万人以上が乳がんと診断されています。乳腺外科では、乳房の病気に関する専門スタッフが診断治療を行います。

手術後も「きれいな乳房」を

「手術」と聞くと、「私の乳房はどうなってしまうの」と心配される方も多いことでしょう。

当院は、手術を行う場合、まず乳房を温存することを第一に考えます。また、乳房を切除することになった場合でも、乳房の再建を積極的に行っています。

手術後の乳房の形は、治療を受ける病院により様々です。当院では、温存手術の場合でも、目立たない傷と再建により「きれいな乳房」を目指します。

乳がんは不治の病ではありません

最近の研究で、乳がんには、ホルモン剤・抗がん剤などのくすりの治療がきわめて有効であることがわかってきました。手術後にくすりの治療を行うことで、手術だけの場合と比べて、再発率を、さらに半分程度にまで減らすことができるようになりました。

当院は、平成24年7月に県内最大規模の化学療

法センターを開設しました。快適な環境のもと安心してくすりの治療を受けていただくことができます。

情報発信にも力を入れています

治療に関する不安の一部は、正確な情報の不足から生まれると考えています。そこで、現在どのような症状で、どのような治療法があるのかを正確にお伝えし、患者さんと医療スタッフが一緒になって治療方針を決めていくよう心がけています。

情報ルームに来ませんか？

乳腺外科外来開設にあわせて、外来スペースの隣に新しく「情報ルーム」がオープンしました。この「情報ルーム」では、患者さんが乳がんと闘うときに役立つ情報をご用意しています。

例えば、治療による外見の変化に悩んでいる患者さんのために、ウィッグ(かつら)や補正下着の実物やカタログも置いています。また、インターネット端末では、乳がんに関する情報収集に役立つ優良ホームページもご紹介しています。

世の中には、乳がんに関する様々な情報が溢れており、正確かつ最新の情報にたどり着くことが大変難しい状況です。この情報ルームが、皆さんの治療の一助となることを願っております。



外来日

月・火・木・金



乳腺外科部長 清水 大輔

こちらも注目!

「がんサポートプログラム」のご案内

「ミニレクチャー」「ストレッチ」など、がん患者さん・ご家族の生活に役立つ情報を、当院の専門スタッフが毎月お伝えします。ぜひ、お気軽にご参加ください。

今後の予定

- 8月27日(火)
がんとお金のはなし&在宅で利用できるサービス
- 9月11日(水)
内服抗がん剤の作用と副作用

*詳細は院内の掲示をご覧ください。



次ページは「病棟編」です。



みなと赤十字病院の 平成25年度の取り組み

快適な入院生活を送っていただくために、
病棟も変わりました。

病棟編

薬剤師

もっと身近に



8階病棟担当薬剤師 田代千明

6月から、薬剤師が病棟で勤務する時間が
増えました。これまで以上に、患者さん一人ひと
りの症状を確認することができ、病棟内の医師
や看護師と相談しながら、患者さんにあったお
薬を提供しています。

どんどん患者さんのところにもお伺いするので、
病棟で薬剤師を見かけたら、気軽に声をかけ
てくださいね。



薬のセットをしているところ

栄養課
より
お知らせ

お食事が変わりました

入院中の楽しみは、何
といつてもお食事ですよ。

しかし、これまで患者
さんから「食事がおいし
くない」「食器がよくな
い」などの意見をいただ
いていました。

そこで、献立の内容を
大幅にリニューアルしま
した。1食あたりの品
数を1〜2品増やすととも
に、ご飯茶碗も温
かみのあるデザインのもの
に変更しました。一般
食をお召しあがりの患者
さんへは、朝食の主
食及び主菜を選ぶことも
できます。



炊き込みご飯、あじの塩焼き、
かぼちゃの煮物、キュウリの即席付け



お食事でお困りの方は 栄養サポートチームにお任せ

栄養サポートチームは、医師、看護師、管理栄養
士、薬剤師、検査技師、言語聴覚士など多職種で構
成されており、患者さんを栄養面から支援します。

「治療の影響で食欲不振になってしまった」「食事や
水分がうまく飲み込めない」などの食事に関する不安
はありませんか？そのような時は、栄養サポートチーム
にお任せください。患者さんがより早く元気になるよ
う一人ひとりにあわせてお手伝いをします。

詳しくは病棟スタッフまでお問合せください。

快適な個室で 療養しませんか

「大部屋（4人部屋）も
いいけど、やっぱり自分の
ペースで過ごしたい。」その
ような患者さんには、個室
がおすすめです。個室なら
ではのゆったりとした環境
が自慢です。

また、料金の設定を見
直し、よりご利用しやす
くなりました。

個室料金	お部屋数
11,550円	32
13,650円	22
14,700円	47 うち、12床は 緩和ケア病棟
17,850円	14
21,000円	1
36,750円 (特別室)	2
52,500円 (特別室)	1



リビングルーム(特別室)



洋食メニューの例(特別室)



こどもたちを食物アレルギーから守るためにできること

昨年、東京の小学校で、アレルギーを持つ児童が給食を食べて命を落とすという痛ましい事故が起きてしまいました。こどもたちを食物アレルギーから守るための当院アレルギーセンターの取り組みをご紹介します。

当院の診療の基本方針と特徴

「安全」と「必要最小限の除去」すなわち「避けるべき食物をできるだけ少なくすること」を理念に診療を行っています。実際に食物を食べ、アレルギー症状が出るか出ないか、また、どのくらいの量を食べてどの程度の症状が出るか「食物経口負荷試験」を積極的に行っていきます。この結果をもとに、「具体的な食べ方」を保護者の方にお話しし、安全かつ除去の負担の少ない食生活を目指しています。最近では、「皮膚から食べ物からだに入り込むとアレルギーが発症し、腸を通してからだに取り入れるとアレルギーが治る方向に働く」という考え方が提唱されています。この点でも、少量でも食べられる範囲で食べていくことは、食物アレルギーを治す近道ともいえます。

また、小児アレルギーの専門知識をもった「小児アレルギーエデュケーター」という資格

を有する保健師・看護師が、細やかな食事生活指導を行っています。

市内唯一のアレルギーセンターとしてできること

多くの方々に、食物アレルギーの理解を広める活動にも力を入れています。学校や保育園・幼稚園の先生、児童相談所、食を扱う市民団体などの方々を対象に、食物アレルギーの講演エピペン（*）講習会を行っています。食物アレルギーへの関心と正しい知識をお伝えし、こどもたちの健やかな生活環境づくりに貢献したいと考えています。

大切なのは「理解」と「準備」

「何を食べてはいけないのか」を、正しく理解しておきましょう。また、症状が出たときの対処法や緊急受診先を確認しておきましょう。



横浜市立みなと赤十字病院
小児科 医長

磯崎 淳 医師

〈専門分野〉

喘息、アレルギー、感染症

〈専門医・認定医・指導医〉

日本小児科学会専門医

日本感染症学会感染症暫定指導医

日本感染症学会感染症専門医

日本アレルギー学会アレルギー専門医

日本アレルギー学会指導医

日本化学療法学会抗菌化学療法指導医



これらの内容について、あらかじめ、学校や保育園・幼稚園にも伝えておき、症状が起こったときの対応を決めておきましょう。また方が一のためのエピペン（*）をお持ちになることをおすすめします。

（*）エピペン：食物アレルギーをはじめとするアナフィラキシー症状を緩和するために使用する自己注射剤です。注射針の先端を太ももの前外側に強く押し付けると、薬が注射されます。



お子さんでも軽くて持ちやすいエピペン



「心で看護すること」と

「その人らしさ」

緩和ケア病棟師長 角藤厚美

愛媛県生まれ。松山赤十字看護専門学校を卒業後、松山赤十字病院に長年勤務。脳神経外科病棟、回復期リハビリテーション病棟師長などを経て、開院と同時に当院に転勤。6A(脳神経外科)、6D(整形外科)、救急の各病棟師長を歴任後、平成23年より緩和ケア病棟師長。趣味はガーデニング。

当院の職員が、日々のようなことを考え、悩み、そしてどのような想いを持って仕事をしているのか、シリーズでお伝えします。

「心で看護すること」ということ

看護師として、最初に学んだことは「心で看護すること」です。それは、大切な家族のように患者さんに接することです。家族であれば、お互い口に出さなくても相手の気持ちはわかります。

しかし、頭では理解していても、つい忘れてしまうものです。

患者さんに「ナースコールで呼ばれた際」「どうしましたか?」と声をかけたところ、患者さんから「痛くて呼んでいることくらいわかるだろう!」と怒られてしまいました。私が「心で看護すること」



を忘れていなければ、自然と患者さんの求める言葉をかけていたでしょう。

「その人らしさ」の意味

最近、また「心で看護すること」を考えさせられる出来事がありました。

緩和ケア病棟の基本理念は、「その人らしく」生活できるように支援することです。

あるとき、入院を希望される方から、「その人らしさ」の意味を質問されました。でも、私はすぐに答えることはできませんでした。相手の方も答えることができませんでした。

その後、その方が入院されるまでの数年の間、病状報告も兼ねた電話での交流が続き、二人で「その人らしさ」の意味を考えました。

「その人らしさ」を実現するために

私は「その人らしさ」とは「後悔することがないよう、「今」を精一杯生きること」だと考えます。そして、看護師である私ができることは、「心で看護」することです。「その人らしさ」の実現をお手伝いすることです。相手のことを思い、



「この人は何をしたいのだろうか」と生懸命考えながら向きあっていたいと思います。

緩和ケア病棟は「残された時間」をただ過ごす場所ではありません。私たちスタッフは「まだ緩和ケア病棟で過ごす時間がある」と考え、最後まで患者さんの「その人らしさ」を追求したいと考えています。

編集部より

看護に対して溢れる思いを持っている角藤師長。小学生の頃は、テスト中に隣の子が困っていたら回答紙をずらして見せてあげるようなおせっかいな子どもだったそうです。看護師になりたての頃、考えが固く「角藤」ではなく「丸藤」になれるように頑張りなさいと患者さんに言われたエピソードなども愛媛弁を交えて楽しそうに話していました。現在は、「みなとガーデニング倶楽部」を立ち上げて、病院の入口付近にお花を植え、行き来する人が喜んでいえる姿を見るのが楽しみだそうです。

「かかりつけ医」を 持ちましましょう

当院は、地域の診療所の医師であるかかりつけ医と連携して、診察治療を行っています。

急性期（*）の患者さんに対する治療は当院が行い、症状が安定した際にはかかりつけ医が診察を行います。

病院とかかりつけ医の役割分担についてご理解いただくことも、日頃から健康のことを相談できるかかりつけ医を持つようにしましょう。

なお、初めて当院に来られる患者さんには、かかりつけ医からの紹介状をお持ちになって受診されることをお願いしています。

（*）急性期：症状が急激に悪くなり、すぐに治療を行う必要がある状態のこと。



かかりつけ医を持つメリット

- 心配なことを気軽に相談できます。
- 病院に比べて待ち時間が短いです。
- 必要に応じて専門医を紹介してもらえます。

紹介状を持参するメリット

- 紹介状をお持ちの場合、初診の予約ができます。
- 初診時の特定療養費(3,150円)が不要になります。

みなとクリニック



卓馬 紳 先生

- ① 内科、小児科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科
- ② 幅広い診療科に対応し、地域における「初期診療」を行っています。また、患者さんのニーズに応じた、正確かつ柔軟な対応をしています。
- ③ 読書・水泳(ジムのプールで泳いでいます)

所在地 本牧町1-7 TEL 623-6633

寺道小児科医院



寺道貴恵 先生

- ① 小児科、アレルギー科
- ② 小児科全般を担当しています。地域に密着したアットホームな雰囲気でお子さんやお客様に安心していただけるような対応をスタッフ一同心がけています。
- ③ ドライブ・歌舞伎

所在地 本牧町1-178 TEL 623-1021

佐藤医院



重松 洋 先生

- ① 循環器科、内科、胃腸科、放射線科
- ② 循環器科が専門ですが、内科全般の診察にも対応しています。患者さんに対して厳しいことをお伝えすることもあります。長い目で見れば患者さんのためになると考えています。
- ③ 音楽(クラシック鑑賞。定期的にコンサートに行きます)・ウォーキング

所在地 本牧町1-18 TEL 621-4403

山本内科クリニック



山本光一郎 先生

- ① 内科
- ② 内科全般。また、併設の訪問看護ステーション・ケアステーションと連携して、在宅医療にも力を入れています。
- ③ ゴルフ・時代小説・歌舞伎・カラオケ・ビール

所在地 本牧町2-364 TEL 622-3331

今回は、「中区本牧町の登録医」
をご紹介します！

（*）当院と連携・協力関係にある医療機関

- ① 診療科 ② 診療の特徴や心がけていること ③ 趣味・休日の過ごし方



シリーズ

「当院の歴史③」(横浜市立港湾病院編)

当院の歴史①・②では、当院の成り立ち、そして前身である2病院のうちの1つである「横浜赤十字病院」について、お伝えしました。

今回は、シリーズの最後として、もう1つの前身である「横浜市立港湾病院」の歴史をご紹介します。

横浜市立港湾病院は、横浜市開港100周年の記念事業の一環として、建設計画が策定されました。

昭和37年5月に、病床数122床、4診療科(内科、外科、整形外科、皮膚泌尿器科)で開院し、現在の当院の正面玄関側の道路を挟んで向側にありました。

山手の街並みから見下ろす白い港湾病院はとても美しく、何度もドラマ撮影の舞台として使われたとの逸話も残されています。

その後、増築・改築などを行い、診療科・病床数とも拡充しました。このため、当初は、港湾関係者及びその家族を対象とした病院としての性格が強かったのですが、次第に地域の中核的病院としての役割を担うようになりました。

平成6年頃から老朽化した港湾病院の再整備計画の検討が始まり、平成15年には新病院が完成しました。これが現在のみなと赤十字病院です。

横浜市は当初この新病院を「(新)横浜市立港湾病院」として運営する予定でしたが、社会情勢の変化などを踏まえ、港湾病院を民営化することに決定し、港湾病院は平成17年3月にその役目を終えたのです。

参考「20周年記念誌(横浜市立港湾病院)」



編集後記

これまで3回にわたり、「シリーズ 当院の歴史」をお届けしました。いかがでしたでしょうか。前号では、横浜赤十字病院の歴史について触れましたが、読者の方から「懐かしかった」という感想をいただきました。

当院でも若い世代になると、病院の成り立ちを知らない職員も少なからずいます。「前の世代から次の世代へ」しっかりと歴史を伝えていきたいと考えています。

当院は再来年10周年を迎えます。常に新しいことにチャレンジしていき、地域の皆様に信頼される病院になるよう職員一同、全力で取り組んでまいります。



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101